
孫呉の新しい家族

蒼龍孔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

孫呉の新しい家族

【Nコード】

N7858S

【作者名】

蒼龍孔

【あらすじ】

園児を庇って死んだ

主人公

月神 影 最強中の最強になって恋姫無双の中に転生します。

乱世を自由に生きる男（前書き）

皆さんこんにちは、私 初めて書くので皆さんに気に入ってもらえるか不安です。

文才がかなりありません。マジで！

出来れば温かいめで見守ってください。

乱世を自由に生きる男

俺は、月神 影 神崎学園に通う学生だ。

俺は、今日この瞬間までは普通の生活を送っていた。

影「危ない！」

キーーーーーッドン！

俺の視界は真っ黒になりそして死んだ……………はずだった。

影「ここはドコだ？俺は、死んだはずじゃ」

？「死んだよ。そりゃもう悲惨な死だったよ」

影「……………」

うお！……………あれ誰もいない

？「アハハ 見えないのは当たり前だよ君の頭に話しかけてるからね」

ああ どうりで誰もいないはずだ。俺 納得

影「それより俺の質問に答えてもらっても良いですか？」

？「うん いいよ」軽いな……………よしそれじゃ質問攻めといきますか。

影「ここはドコ？貴方は誰？ 俺は死んだはずじゃ？何で周り全て真っ白いの？飯はどうしてるの？」

？「ちょ、ちよっと多いつて」

どうだ！俺の質問攻め

姿は見えないが焦ってるな…クツクツクツク

？「はあ 言っとくけど君の心の言葉、聞こえてるよ」

……………な！なんだと

？「じゃあ質問に答えるね。ここは私の空間。まあ簡単に部屋って思ってくれていいよ。そして私は一応神様って呼ばれてる。そして私は一応神様って呼ばれてる。そして君いや影君か

確かに死んだよ保育園児を庇ってね。

ちようど神様のお偉方がそれを見てね〜 皆感動して君を違つ世界へ転生させようってなったんだよ よかったね〜」……………いやあり得ないだろ いくらなんでも無理がありすぎる

神「あり得なくないよ〜 ほらあの扉を見てごらん」
うわい！……………

急に出てきたから変な声でた恥ずかしい／＼
神「プツ…クツクツク」

影「〜／＼／＼」 笑われた〜恥ずかしい
神「まあ いいから扉見てごらん」
恥ずか……………そろそろ立ち直るか
さーてどらどら……………

影「三國志？」

えっ何で転生先が三國志なの 死んじゃうよ「冗談じゃなくてマジで！

神「大丈夫〜簡単には死なない……………いやそれじゃ面白くない」
あれ？神様何か嫌な予感が……………

乱世を自由に生きる男（後書き）

どうでしたか

読みにくかったらすいませんm（　　）m

気が向いたら更新していきます

皆さんヨロシク？

乱世を自由に生きる男2（前書き）

皆さんこんにちは、文才ないです。
まあ、楽しんでください

乱世を自由に生きる男2

皆さんこんにちは、

月神 影です。

ちなみにあの後神様に

神《超超超がつくほど

チートな感じにしたから。楽しみにしててね》

と言われ扉に入りました 入ったのはいいけど

影「オギヤーオギヤー（何で 赤ちゃんになってるのー！）

神「ごめんごめん」

あつ神様！

どうなってるの……

つて喋れないort

神「別にいいよ聞こえるし」

そうですね ところでなぜ俺は、赤ちゃんになってるのですか？

神「あー、別に敬語じゃなくていいよ」

それと、理由はあまりにもチートかかり過ぎてねえ〜間違っ
て赤ちゃんになっちゃった（ ）

ごめんね〜

はあ、わかったよ。

神「よろしい」

？「ここから聞こえますぞ堅殿」

？「ほんとだ ねえ祭見てきていい？」

ん？何か声が聞こえる

神「あゝここまでですわ〜」

えっ どーゆこと？

神「私の出番ですよ〜 まあ、また出てきますがね」

もう行くのか。でもまた来てくれるんだろ？その時 貴方の姿見せてくれよ

神「はい その時までアデュー」

なんか最後の言葉気になったけど……まあいいや

？「あつ！いたいた うわ〜可愛い〜ねえ祭拾ってもいいかな？」

おいおい いくらなんでもいいはずが………

？「見た所捨て子のようじゃな いいのではないか堅殿 孫呉の跡取りにすれば」

………マジでー！

？「祭 頭いいわ〜そうしよう」

マジで〜〜〜〜（。・。・）

乱世を自由に生きる男2（後書き）

ありがとうございました

この次は 主人公設定でもと思います。

それではアデュー

乱世を自由に生きる男3

〈日常〉(前書き)

すみません m (|) m

主人公設定は次かまたいくつか書

いたあとかも……………

文才ないです

俺が拾われてから
3ヶ月がたった。

ちなみにあの後名前と

真名がつけられた。

真名とは、まーあれだ信頼しあつた者同士が呼ぶ神聖な名だそうだ。

俺は、姓は孫 名は神 字を拍王 真名を影 だそうだ

ドーーーーーン！！

? 「影ー起きてるーお母さんだよー」

あゝ言忘れたこの人は孫堅文台 真名を水蓮

俺を拾い我が子同然に可愛いがつてくれる

? 「堅殿！静かに影が起きてしまう」

? 「そうです水蓮様 影様が起きてしまいます」

この二人は 黄ガイ真名は祭

もう一人は魯肅 真名を蚩 二人とも俺の世話係だ

水「いいじゃん可愛い息子の顔を見にきたただけだから」

祭「まあ、堅殿の言うことも分からんでもないがな」

蚩「ほんとに可愛いですね 影様」

そうだ、反応してみよ

影「アツアツ」

…………… うまくいかないもう少しで話せそうなんだけど

水・祭・蚩「可愛い」

親達にはこんな反応で十分みたいだ

乱世を自由に生きる男3

〈日常〉(後書き)

ありがとうございました
ここでオリキャラ登場です

乱世を自由に生きる男4（前書き）

最近学校が忙しくて

文が変になっているかも

楽しんでください

文才ないです

乱世を自由に生きる男4

俺が拾われてから8年が経ち俺は、周りの大人が顔負けするほど強くなり頭も良くなった。

理由は簡単 元々チートな体で全体能力ずば抜けて高い……がただ一人母さんだけには勝てない。

あの人の方がチートなんじゃね？

ちなみに3年前に妹ができた 名は孫策 真名は雪蓮俺のことを「影にーさまー」と言い寄ってくる……可愛い

今日も

影「ほーら雪蓮こつちだぞー」

雪「待ってー影にーさまー」

あー癒される……ゴン！

影「……っ」

この威力はまさか……

雪「あつ！かーさまー」

影「母さん……急になんですか」

この拳骨は物凄く痛い

水「兄妹仲良しなのは分かったから。雪蓮はお勉強の時間よ」

雪「え……やだ〜影にーさまともっと遊ぶ〜」

水「だ〜め 祭 蛍お願い」

祭「了解した。策殿行きますぞ」

蛍「雪蓮様〜行きましようねえ〜」

あ〜妹が連れて行かれる………寂しいな

水「影ちよつと暇かしら？」

影「はい これといつてすることはないので」

水「じゃあ ちょっと来て」

んんん母さんいつもとは違う真面目な顔して……………まさか！

影「母さん……………まさか病気ですか？」

水「なんで？」

いつも違う顔してたから……………殺されるな うん

影「いや なんでもないです」

水「そう……………着いたわよ」「ん？ここ王間じゃん

えっ何で母さん玉座に座ってるの？

水「影……………いや孫神貴方に話しておきたいことがあるの」

あゝ大体予想がつかない

影「俺が貴方の本当の息子じゃないってことですか？」

水「……………！ どこでその事」

まあ、拾われた時の記憶があります…なんて言えないからな…誤魔化すか……………

影「まあ 皆の態度とかですかねえ。後 髪の色ですか」

水「そう……………それだあ「母さん！」っ」

影「俺は なんと言われても貴方の孫文台の息子です。だから、心配しないでください。(ニコツ)」「水「……………っ／／／」

あれ？母さん顔真つ赤だ 風邪でも引いたのかな？

影「母さん？顔真つ赤ですよ？」水「な、何でもないから もう用は終わったから雪蓮と遊んでらっしゃい」

影「はい 分かりました」よし雪蓮で癒されるぞ… said 水蓮

私は今日、影に本当のことを言っつもりで玉座に連れて来た。

影「俺は、なんと言われても貴方の孫文台の息子です」

その言葉を聞たとき不覚にも涙が出そうになった……いや
問
題はその後ことよ！影』(ニコツ)』

……顔が熱い

まさか！仮にも自分の息子に……惚れるなんてえ

＼ Said out 〉

あの後 母さんが俺を見るたび真っ赤になるんだが

祭「ほゝ影もやるのお」

蛭「本当ですねゝ」影「祭 蛭 母さんどうかしたのですか？」祭・

蛭「はあゝ……」

二人してため息ついて……なんで？

乱世を自由に生きる男4（後書き）

次回は、旅立ちを書く予定です。

次回もどうぞよろしく

乱世を自由に生きる男5 へ旅立ちそして再開へ（前書き）

今 気がついた 祭や蛸との会話が少ない
でも、ある程度経ったら出します。

文才ないです

乱世を自由に生きる男5 〱旅立ちそして再開〱

皆さんこんにちは、影です。俺は今 母さんに呼ばれて玉座に着いたところです。

影「母さん話ってなに？」

水「影貴方もつと強くなりたい？」

ん？急に何を言い出すのやら……そんなの決まってる

影「ああ強くなりたい。倒す力も守る力も両方欲しい」

これが俺の本心

武を学ぶときから決めていたことだ

水「そう……じゃあ 祭あの人達連れてきて」

祭「御意」

えっ？あの人達って誰？影「母さん……あの人達って？」

水「まあ、祭が来るのを待つときなさい」

ちなみに蛭は雪蓮の子守らしい。どつりでさつきから見ないわけだ。祭「連れてきたぞ。」そう言っつて祭が連れて来たのは 黒く長い髪をした綺麗な女性と黒いローブを着た二人組だった……誰？

影「母さんあの人達は……」

水「知らない」

……はっ？

水「だって影を強くしてくれるって言ったんだもん」

だもんつて子供ですか貴方は……

影「祭……何で母さんを止めなかつたんですか」

祭「い、いや 俺はちゃんととめたぞ それを堅殿が無理矢理……」

水「え〜〜祭だつて乗り気だつたじゃない」

祭「け、堅殿」

……………もういいや

？「お取り込み中すいません〜 で話の方は……………」

あれ、黒い髪の女の声性どこかで聞いたような……………」

水「あ〜その事なら影どうする？」

まあ、この人性格からして 嫌って言つても無理矢理「いけー」

つて言われそう

第一に嫌とは言わないが（笑）

影「はい！お願いします」

？「はい よろしく〜」

う〜ん、やっぱりどこかで会つたような気が……………？「じゃあ 行

こうか」

……………はっ？ 早くない？

ほら、母さんと祭も

（。。。；）って顔してる

水「いくらなんでも早すぎない？明日とかじゃ駄目なの？」

？「はい 思い立つたが吉日とも言いますし〜 じゃあ連れて行き

ますねえ〜」ガシッ

黒いローブの二人に捕まれた……………力強よ！

？「それではアデュー」

はっ 頭の中にデジャブが まさか！……………それより肩が痛い……………

乱世を自由に生きる男5 〱旅立ちそして再開〱（後書き）

さあ、次回のお話は修行のお話です。2〱3位で終わらそうと思
います。

また 次回もお楽しみ それでは皆さん さようなら〱

く修行1(前書き)

すいません短いです。

く修行1

皆さんこんにちは、あの後、俺は黒いローブをかぶった二人とたぶん俺を転生してくれた神様に 連れて行かれある村に着いた……………

…何処だよ

神「さあ、始めましょうか影君」

影「ちよつと待った 俺は、貴方のことどう呼べば？」

神「華でお願いします。そうだ 貴方達も挨拶しなさい」

神さ…………華が黒いローブをかぶった二人に言う

？「俺は、左慈お前に異世界の武を教える よろしくな」

？「私は、宇吉です。貴方に、妖術や軍略を教えます。よろしくお願ひします」

影「ああ 俺は 孫神だ よろしく」

華「ちなみに私は、武器を教えるよ」

こうして俺の地獄の日々が始まった……………

く修行1（後書き）

えこの話では 左慈と宇吉はいい人です。

チヨウ蝉や卑弥呼が一刀側な感じで

左慈や宇吉は主人公側です

修行の前(前書き)

短いです m () m

修行の前に

さあ、今から修行だ………と置いていたら 何か この時代にあつてはならないものが目の前に

宇「修行の前に 今から孫神君に 華様が付けたチートを更新したいと思うのでこの スーパー宇吉君に入ってください」

………いや 見るからに怪しいんだがどうか怖いんだが影「いや、俺はちよつと……」

華「大丈夫だよ？ さあ、入った入った」

えっ何で疑問形？それより押さないで華さん！ 左慈も何で合掌してるの！

宇吉は 黒い笑みを浮かべてる

左「孫神……死ぬなよ」

左慈 不吉な事言わないで

宇「それでは 逝きます」

宇吉 何か文字間違ってるよ！シャレになんないよ！

ビリビリビリビリ

ギヤーーーーー

影「ギヤーーーーー」

その日 村中の家が揺れたらしい

修行の前(後書き)

さあ、次回やっとなつと修行です

まあ、最初からチート丸出しだと思えます

次回もお楽しみに

新たな旅立ち（前書き）

すいませんm（ | | ） m
修行書きたかったですが 何も思い浮かばなくて
楽しみにしてた
皆さんすいませんでした

新たな旅立ち

左慈や宇吉 華に修行をつけてもらって10年が過ぎた……………

展開が早いだと？

文句は作者に言え

作者（誠に申し訳ありません）

何か 電波が聞こえたが

宇「影く〜ん 華様が読んでますよ〜」

ちなみに 左慈や宇吉に真名を教えた あいつら真名ないんだって

お兄さん 驚きだ！

影「分かった 今行く」

……………たくさんの武器が目の前にあるんだが……………

華「いや〜 強くなったね〜 私たちが本気で行っても勝てないよ」

そう ゆる〜い口調で言う 鬼師匠

なぜかって？

まあ、機会があつたらな教えるよ

影「それより 華このたくさんの武器は？」

華「これは 貴方がいた世界の武器という武器を集めてみました〜」

ドーン！

と背景が付きそうなぐらい胸をはって言う華

影「で 貰える制限あるのか？」

俺的には 無い方が……そんな都合の良いことがあるわけ

華「制限？そんなの無いよ」

あったー！えっマジで！やっべ 超ウレシー

左・宇「いや どうやって持って行くんだよ（ですか）」

……うん わかってただけだね 無理だよねこの量 軽く1000

0 疋ありそうだもん

華「大丈夫」 影君は頭の中で創造すれば出てくるから……
まじで

創造するだけで出てくんの

華「試してみたら？」

そういつてくる華

まあ、やってみるかね……………創造……………創造……………戦国無双

の四国の人の武器

すると 俺の手もとに光が集まり……………

パァン！

……………おおできた！

華「出来たみたいだね じゃあ 言う事はないや それと影君どこ
か行く宛てあるの？」

うーん 家に帰る気もないし……………うーん 無いな

影「……………無いですね」

華「じゃあ 私の知り合いに水鏡って人がいるから 会ってみて」

まあ、行く宛ても無いし行くのもいいか……………

影「じゃあ その人の所に行ってください 華、左慈、宇吉 じゃあな 元気で」

そういつて俺は出かけようとすると うしろから

左「じゃあな！ 風邪引くなよ」

宇「また、来てください 楽しみにしておきます」

華「うん バイバイ あゝどこか広いで

頭の中で 『ステータス』って考えてね」ん？ よく分からないが
どこか広いとこか……………

俺は 三人と別れ旅に出た

新たな旅立ち（後書き）

GWの課題が多い
駄文になりつつ

合間を見つけて書いてるせい

次回もがんばります

主人公設定（前書き）

やり過ぎた……でも後悔はしていない

主人公設定

名前 孫神 拍王 真名 影

容姿

美形すぎて女装してもバレない(本人の悩み)

身長 185?

体重 65?

細身だが筋肉はついている

髪は 黒みがかかった銀 目の色 赤

能力

砂・炎・闇・地震・雷・氷・光・マグマ人間

体力

防御力

速さ

賢さ ヤバイ

武器

色々あるがもっぱら 戦国無双の四国の人の子三味線と某忍者
漫画の鮫肌を使っている

特技

舞・歌・料理その他

主人公紹介

仲間や家族を大切にしている

興味があることには物凄く力を使う

無いものにはまったく使わない。

本人曰く 疲れるから誰にでも優しい

誰でも撫でてしまう負け戦を勝ち戦にするのが好き

料理の腕はとても凄いが自分の認めた人以外には作らない

父親みたいに頼りになることがある

孫呉の王に成るはずだったが 修行の終わりの日に旅に出て雪蓮に譲ることにする

性格は雪蓮にそっくりだがきちんと仕事を終わらす

家族や仲間甘い 敵に厳しい

馬に乗るときは何故か馬上に立っている

本人曰く落ち着くから

そして 進軍や行軍中 暇なときに三味線を弾く

主人公設定（後書き）

次回もがんばります

サービスサービス……

……すみませんm（
）m

帰還……なんで(前書き)

キャラ崩壊 ごめんなさい

帰還……なんで

「ベンベンベン」

俺は、三味線を弾きながら荒野を歩いていて「今日も良い音」

俺は調子に乗っていた さあ〜これからどこ行こうかな……

うん？

何か行列が来るな 旗印は……『孫』まじかよ

逃げ「そこの者待て！」られなかった

「貴様 何者だ」

桃色の髪のとつり目の女の子が言う 雪蓮の妹かねえ

「人に 名前を聞くときは自分からって習わなかつのですか」

「貴様！」

後ろに控えていた女の子が刃物を突きつけた

「おお 怖い」

ふざけてないよ まじで怖いよ

「やめなさい思春」

「ですが……」

「思春！」

「……御意」桃色の女の子が言う

まあ平気なんだがね

「ごめんなさい。私の名前は孫権 呉王孫堅の娘よ 貴方の名は」

「……」

「貴様 なぜ黙る！」

まあ、言っても信じてくれないし

「訳ありのようね……思春 姉様の所連れていくわよ」

「いや……それは」「御意……ついてこい」

いや〜なんでこうなるの〜

天幕

雪蓮 said

「報告！孫権様が怪しい奴を捕らえたとのこと」

「すぐ連れてくるように伝えなさい」

「ハッ」

へえ〜怪しい奴ね〜 どんな奴かしらここには冥琳は居ないしさあ、
どうしようかな〜

「姉様 入ります」

さあ、来た き……た……

Said out

「さあ、入れ」痛いす 孫権さん そんなグイグイ押さないで

「姉様入ります」

ああ 雪蓮に会えるのは嬉しいけどもっと別な会いかたがよかった
な〜

あつ雪蓮だ 大きくなったな〜

最後にあつたのい…ドスン…げふ

何事かと思えば雪蓮が俺に抱きついてた

「にい…さま？」

上目遣いで聞いてくる雪蓮様 可愛いです

「ただいま 雪蓮」

俺は 優しく言った

「兄様兄様兄様！寂しかったんだから

勝手に居なくなっ

どれだけ心配したと思ってるの！」

俺の胸をポカポカ叩く雪蓮……心配かけたな「ごめんな」

「うわぁ~~~~ん」俺の一言で泣く雪蓮こりやなだめるの大変だ

帰還……なんで（後書き）

またよろしく

実は俺 低血圧なんですよ……………(前書き)

(。。(。
くその後輩!

(、*(

……………

(*^^(
ミ)(+)

無視スナ アベシ!

(、*(

なんなんすか先輩

、() () 3)

早く更新しろ

実は俺 低血圧なんですよ……………

皆さんこんにちば俺はあの後雪蓮に泣き止んでもらって ポカんとしていた孫権と甘寧もといい蓮華と思春に真名をもらいました
ところで我が孫策軍が今からいく場所はなんと黄巾党が居る場所みたい
です曹操も来るらしいですから楽しみですね

「影様 何を笑っておられるのですか」

俺が考え事をしていたら思春が俺の顔を見て尋ねてくる

「いえ 何でも無いですよ」おっと 顔に出てましたか気をつけ
ましょうかね

「伝令！もうすぐ目的地に着くのこと それと孫神様は着いた
ら私の所に来るようにと孫策様からです」

伝令さんが走ってきて全ての用件を言い終えるまで30秒……………
凄いですね

……………えっ 俺ですか？たぶん17秒ですかね

「影様 そろそろ着きますよ」

「ああ 分かりました」

さてと 雪蓮の用件はなんですかね

天幕

「雪蓮！入りますよ」「もう！兄様遅い」

ブクーっと頬を膨らまして俺に文句を言う雪蓮

………うん 可愛いは正義ですね「まあ 遅れたのは謝ります

それより用件は」「まあ良いけど 今から官軍達と軍議があるんだ
けど………」

なにやらもじもじしながらこっちを見る雪蓮

ああ なるほど掴めましたね

「ようするに一緒に行けばいいんですか？」「………うん」
顔を赤くし下を向く雪蓮

「ああ〜雪蓮は可愛いですね！」

ガシツ ナデナデ

「ふえ！ ち、ちよつと兄様／＼／＼」

さらに顔を赤くする雪蓮………癖になります

実は俺 低血圧なんですよ……………(後書き)

(、?)

おい〜弟お〜

(…)

な、何？兄ちゃん

(、?)

ちよ〜つと 来い

ヒエヒエ(…)

(*)

じりせー！

ウヒィィ(…)

泳げないのは不便じゃないですか？（前書き）

えー 作者です まず 更新遅れてすいませんでした
いろいろあったんです……いろいろ

泳げないのは不便じゃないですか？

えーっと皆さんこんにちは 影です

今 俺と雪蓮は黄巾党を壊滅させるために集まっている将と会うべく天幕へ向かっています

意外と長いですよ距離

「止まれ！何者だ！」

「孫策よ 軍議に来ただけけれど」

さすが 一国の主だけはあり堂々としてますね

まあ、俺だったら無理ですけど……

「これは 孫策様でしたか……此方へ皆様待っておられます」

兵隊さんに連れられ天幕に入ると

「孫策 遅いわよ！」

小さい金髪クルクル娘がいました

「ごめんなさい 遅れるつもりは無かったのだけど」

謝りながら椅子に座る雪蓮

「ほな 皆集まったところやし自己紹介といこか」

紫色の髪をして独特な口調をした美人が言う

「うちは 張遼や」

「私は曹操よ」

「私は夏侯惇だ」

「私は夏侯淵という」

張遼さんから曹操さん夏侯惇さん夏侯淵さんと順番に来ている

俺達ですか？もちろん

一番最後ですよ

「私は劉備って言います」

「俺は北郷一刀 天の御使いって言われてる」

ーざわざわー

自己紹介が続いていくなか劉備って子の近くの男の子で皆ぞわつきはじめましたね

はて？天の御使いですか（おつかい）とも呼べますね

「……さ……ま」

それより この戦が終わったら張遼さんに付いていきましようか

「兄様！」

「はい？」

「自己紹介だよ」おっと 考えに事に集中し過ぎましたか

「えー 俺は孫神と言います 孫策の兄です」

俺が自己紹介を終わらすと何故か天の御使い君がこっちをじっと見てますよ

何か変なことを言いましたかね

「自己紹介も終わったとこやし軍議はじめよかー」

それぞれの自己紹介が終り張遼さんが気だるそうに言う

まあ、気だるいのは俺もですがね

「それより張遼 黄巾党の兵力を教えてくださいませんかしら」

金髪クルクル……………もとい曹操さんが腕を組んで言う……………可愛いですね

「ここに居る黄巾党は3万ぐらいらしいで」

「さつ三万！」

かなり驚いている皆さん

ちなみにここに居る全部を足しても一万と五千ぐらいです

「さて、誰か行きたい人はおるか？」

やはり誰も手を挙げませんね

仕方ないここはおにーさんが一肌脱ぎますか

「では……俺が行きます」

「えっ兄様？」

〈影side out〉

〈雪蓮side〉

「誰か行きたい人はおるか？」

そう言つて張遼は周りを見渡した 私は解っていた誰も手を挙げるはずは無いと……

「では……俺が行きます」

「えっ兄様？」

ありえなつたかた いつも冷静で無謀なことには全く手をつけなかつた兄様が自ら3万いる黄巾党と闘うなんて 私は兄様を止めようとした

「雪蓮 止めないでくださいね」

「でも……たのみます」………解つたわ でも 必ず生きて帰ってきてね」

〈雪蓮side out〉

〈影side〉

危なかったですね 雪蓮に止められるかと思って先に言っ
たかったです。

「ほな 孫神やったか？頼むわ」

「ええ では」

では 始めましょうか 華達に鍛えられた俺の Annihilation
tion を

泳げないのは不便じゃないですか？（後書き）

次もいつ更新できるかわからないですがよろしくお願いします

イチゴって甘いのですっばいのがありますよね
b 影 (前書き)

なし

イチゴって甘いのとすっぱいのがありますよね b y 影

――孫策軍――

「兄様……本当に行くの？」

天幕からの帰り道、雪蓮が私に尋ねてきた

「ええ、あの場で言ってしまったからには行かないといけませんからね」

今さら 無理でしたー なんて言えませんが

言ったら……考えるのはやめましょう……ハイ

「分かったわ……でいつ行くの？」

「そうですね……早い方がいいので今晚にでも」

「そう……兵力はどのくらい必要？」

……考えてませんでした

どうしますかね………そうですね！後で、華に連絡入れときましようかね

「大丈夫ですよ……たぶん」

「そう……なにか必要な物があったら言ってね」

そう言い残して馬を走らせる雪蓮

良い子に育ちましたね〜兄として嬉しいです………っと用があるんですけどね

――影の天幕――

『華〜華〜いますか〜?』

『うみゆう〜……あと五分〜』 ああ、寝てましたか。確かこういうときは【アレ】を言うといいって宇吉が言ってましたね

『華〜プリンがありますよ〜』

『プリン!……!……!……!』

〜〜〜っ!頭があ〜頭があ〜

『影君!影君!プリンどこ!』

『は、華落ちて着いてください』

『落ちて着いていられるわけがな〜〜〜〜〜い』

その後、華をなだめることに約30分かかってプリンが嘘だとわかっていじけた華をなだめるのに一時間かかりました……………

『……………で何のような影君』

『ああ…そうでした……………兵って俺の能力でどうにか出来るんですか?』

『えーと、確か【砂の力】で確かできるよ』

『どうやってですか?』

『えーと、頭の中でイメージすればいいと思うけど』

『なるほど……………わかりました 忙しいところ呼び出してすみませんでした』

『別にいいよ〜 あっそれと影君の敬語上手くなってきたね〜』

それは、嫌というほど特訓させられましたからね……………あの時の左慈と宇吉、俺に哀れみの視線を投げかけてたんですね

『じゃあ影君、またね』

『はい、それでは』

……ふう、それでは作ってみましょうかね

頭の中で…イメージ……よし

「では、【砂創】」

おお、あつという間に出来ましたよ。時間が、5秒くらいですかね。意外と、リアルですね……感情はあるのでしょうか……さすがにそこまでは無いみたいですね。

「兄様今入って大丈夫？」

おっと、雪蓮にこの場は見られたら少し厄介ですね

「待つてください……【砂創・解】……いいですよ」

「ごめんね忙しいときに」

「別にいいですよ。で何のようですか」

「えーと確か天の……天の「天御使いですか」そうそれ！」

雪蓮……名前を覚えなさいよ

「天御使いが兄様に話があるらしくて外で待ってるわ」

天御使いが何のようですかね……

――外――

「貴方が天御使い……ですか」

「そつだ、あんたに話があつてここまで来てやつたんだ」

思つたとおり頭が悪く今まで他人任せで生きてきた礼儀知らずの少年ですね。

「別に頼んでもいないですけどね」

「なんだと！何だ人がわざわざ来てやつたのにその態度「貴方のほうがひどいわよ」っ誰だ！！」

あら、曹操さん……いつの間においになつたんですか
「劉備のところへ貴方を見に行こうとしたら、ここにいることを聞いてきたのだけれど……興ざめね」

「どういふことだ！！」

「自分で考えることもできないの？餓鬼ね」

俺つて今空気になるつつありません？というかうちの陣での天御使いの評価がゴツソリ無くなっている気がしますね。だってね皆冷たい目で彼を見てるから

「お邪魔だつたわね、えつと孫神でいいかしら今夜の戦樂しみにしてるわよ」

「はい、曹操殿もご苦労様でした。こんど一献お付き合いよろしいですか」

「ええ、貴方が生きていたら」

「はははははは 頑張らないといけませんね。この美しい方と酒を飲むために」

「な、何を言つてるのよ¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥」

曹操さんの顔が赤くなつてますけどきつと夕焼けのせいですね

「ん？天御使いがいませんよ」

「さつき走つて帰つてたけどわからなかつた？」

「……えっ」

曹操さんが帰つたあと話を聞いてた雪蓮と蓮華に O H A N A
S I されました

イチゴって甘いのですっばいのがありますよね
b y 影 (後書き)

なし

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7858s/>

孫呉の新しい家族

2011年7月2日23時55分発行